



続
シナプス
 ~園長室だより~

 令和4年3月

あかるく・やさしく・たくましく！

■卒園・進級おめでとございます！

2017年に改訂され、2018年4月より施行された幼稚園教育要領（学校教育法に基づき幼稚園教育の基準を示したもの）に、幼児期の終わり、すなわち小学校入学までに育ててほしい姿や能力の目安として「10の姿」というものが示されています。

内容的には、次のような項目になります。

- ①健康な心と体 ②自立心
- ③協同性 ④道徳性・規範意識の芽生え
- ⑤社会生活と関わり
- ⑥思考力の芽生え
- ⑦自然との関わり・生命尊重
- ⑧量・図形、文字等への関心・感覚
- ⑨言葉による伝え合い ⑩豊かな感性と表現

それぞれの詳細について興味のある方は、改めてお調べいただければと思いますが、これをご覧になってどのように感じられるでしょうか？

振り返れば、この度めでたく卒園を迎えた子どもたちは、幼稚園生活の3分の2をコロナ禍で過ごしました。体験不足や運動不足等、様々な成長への懸念材料も言われていますが、少なくとも、園での子どもたちの様子を見ている限りは、微塵もそんなことは感じません（実際に、体育レッスン見極め結果では、全体の平均値も非常に高く、縄跳びでは過去最高記録もできています。裏面参照）し、むしろ、コロナ禍だからこそ体験、経験できたこともあるはずで、規模の大小はあるものの、園でも様々な例年にない取り組みも行い、試行錯誤を重ね、この「10の姿」にもたくさん触れました。「10の姿」は、もちろん、すべてが子どもたちの成長にとって非常

に重要なものであり、身に付けるべき姿だと考えますが、体験することと、身に付けることはまた別問題であり、3年間の園生活で獲得した力をベースとして、これからの小学校生活に繋ぎ、より成長してもらえればと考えています。

私自身本当によく思うことなのですが、子どもたちに伝えていることは全て大人にも通じていると思います。この「10の姿」も、よくよく考えてみると大人にも必要な姿なのではないでしょうか？そう考えると、改めて、自分の心情・態度を律する気持ちになります。私たち大人は、子どもたちに言う前に、自分はどうかかということも考えなくてはなりません。耳の痛い話ではありますが、子どもたちは、私たち大人から多くのことを学びます。完璧な人間などはいませんが、だからこそ意識することが大切だと思います。

『ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず』「方丈記（鴨長明）」の有名な一節です。「川の水の流れは絶えることなく続いているように見えるが、よく見ればそれは決して同じ水ではなく、移り変わっている」という意味です。この一瞬一瞬が唯一無二のものであり、二度とない瞬間だけに、子どもたちには悔いのない、楽しい時間を過ごしてほしいと思いますし、保護者の皆さま自身も。子育てを通して有意義な時間をお過ごしいただければと存じます。

最後になりますが、コロナ禍という混乱の中ではありませんでしたが、保護者の皆さまの温かなご理解とご協力に改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。
 園長 野口 大仁